

PHOTOSHOP WORLD COME TO JAPAN

2005年11月9日(水)と10日(木)、日本初のイベントが品川プリンスホテルで開催された。「Photoshop World 2005 in JAPAN」。これまでアメリカで行われてきたイベントの日本初上陸だ。しかも、アメリカ以外での開催は日本が初めてと聞けば、Photoshop ユーザーならずともワクワクするのではないだろうか。

Photoshop World とは

アメリカにある NAPP (National Association Photoshop Professionals、<http://www.photoshopper.com/>) が年2回開催する世界最大の Photoshop イベント。これまでアメリカで14回開催されてきた。Photoshop の生誕15周年を迎えたことを記念し、日本での初開催となった。Photoshop World は、製品を紹介するというよりは、むしろテクニックや TIPS など Photoshop をいかに使いこなすかを、クリエイターやフォトグラファーに紹介するというイベントだ。今回は、キーノートに加えて30のコンファレンス、各社展示コーナーや EXPO シアターなども併設された。

キーノート

中央にボクシングのリングが設営されているキーノート会場。映画「ロッキー」のテーマ曲と共に、特製の T シャツを観客席に投げ込みながらの入場をもって二日間に渡る Photoshop の祭典は幕開けした。2500名の座席はほぼ満席だ。

まずはじめに、アドビシステムズ社の梶谷宗央氏により、「Photoshop のお祭り」の開会挨拶と概要が説明された。

基調講演は、米国アドビシステムズ (Adobe Systems) 社の Kevin Connor (ケビン・コナー) 氏による。Photoshop の歴史を振り返り、DTP (Desk Top Publishing) からスタートし、Web パブリッシングへと発展してきたと語る。さらに Photoshop はデジタルカメラの普及と共に、デジカメ画像の現像から出力ワークフローに利用されるようになってきた。そうした市場ニーズに応じて Photoshop は進化し続けている。また、アドビとしてはメーカー依存の RAW ファイルから脱却するために DNG (Digital Negative file format) を業界に向けて提案していると語る。さらに、Photoshop CS2 の「Vanishing Point」「Smart Object」「ワークスペースメニューのカスタマイズ」などの革新的な機能の幾つかを紹介。加えて、フォトグラファーにとって有用な道具となる Adobe Bridge を紹介。これは、Photoshop にあったファイルブラウザをベースにしたアプリケーションだが、

Photoshop とは別アプリケーションとなり、スタンドアロンで使用できるようになった。さらにバッチ処理や RAW ファイルの現像など非常に役立つ機能で拡充されている。

メインイベント「Photoshop Fight」

ついに、メインイベントの「Photoshop Fight」(Photoshop ファイト) に突入! 会場にあるボクシングリングをよく見ると、リング上にはノートパソコンが載ったテーブルが二つ、向き合うように設置されているではないか。そう、このリング上で Photoshop のテクニックや TIPS を競い合うのが Photoshop ファイトだ。勝者を決めるのは観客の拍手の大きさ。いかにも Photoshop ユーザーの心をくすぐるような演出だ。

日本初の Photoshop ファイトのリングに上るのは、NAPP の創設者であり会長、Photoshop User 誌 (年8回発行) の編集長も務める Scott Kelby (スコット・ケルビー) 氏。ケルビー氏はトレーニング中のボクサーのようにフード付きスウェットパーカーを着ている。対戦相手は、Photoshop の伝道師、米アドビシステムズ社のラッセル・ブラウン (Russell Brown) 氏だ。ブラウン氏は初代 Photoshop 開発者の一人で、過去の Photoshop イベントでスターウォーズやマトリックスをパロディーにしたプレゼンで聴衆を楽しませてくれた。彼の熱狂的なファンも少なくない。今回は猿のイラストの T シャツにオレンジのボクシングトランクス、それに白黒ストライプのタイツを着用。頭にはハチマキをしている。このあとどんな展開になるか楽しみだ。そして、レフリーは Photoshop イベントでお馴染みの遠藤悦郎氏が務める。

ゴングが鳴り (カーン!) いよいよ戦いが始まった。TIPS が紹介されるたびに会場内にはどよめきが起り拍手が鳴る。実用的な TIPS を披露するケルビー氏に対し、相変わらずのジョークと人目を引くテクニックで応戦するブラウン氏。二人の攻防は熾烈を極める。(途中からはそのテクニックに魅入ってしまい、すっかりメモし忘れてしまいました)。

スコット・ケルビー氏が紹介した TIPS の一つは、「調整レイヤーを使い補正結果を簡単に他の画像に適用する」方法だ。(右のサンプルを参照)

1. 調整レイヤーを使って画像補正を行う (サンプル 1)

例えば、調整レイヤーのレベル補正を選択。レベル補正ダイアログにある 3 つのスポイトツールを使って、画像上の黒点、グレー点、白色点を設定して明るさを補正する。

2. 補正済み画像の調整レイヤーを、同じ補正を適用したい画像にドラッグアンドドロップする (サンプル 2)

3. 調整レイヤーをドロップした画像に明るさ補正が適用される (サンプル 3)

対するラッセル・ブラウン氏の TIPS には「レイヤーカンブを切り替えることによってアニメーションのような効果を生出し、それを PDF スライドショーに書きだす」「レイヤーのロックアウトオプションを使って下のレイヤーを暴く」方法などがあつた。

ちなみに勝敗はというと、拍手の量では五分五分といったところだったが、ブラウン氏が拍手を稼ぐために、T シャツを観客に投げ込むなどの賄賂をしたということで反則負け。日本における初代チャンピオンの栄光はケルビー氏のものとなった。

コンファレンス

「Photoshop World 2005 in JAPAN」では、30 のコンファレンスが開催された。第一線で活躍しているクリエイターやフォトグラファーによる体験談やデモを交えた実践的な内容のセミナーだ。

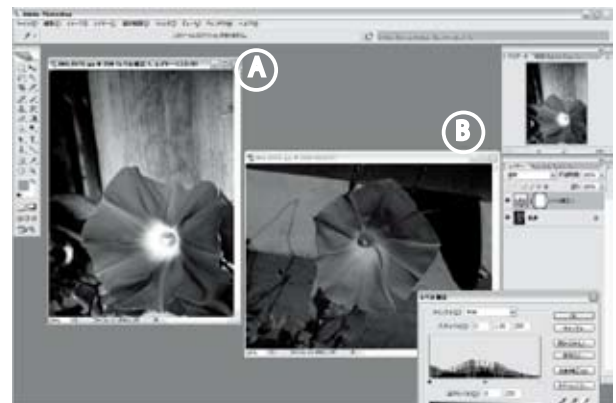
多くの人がデジタルカメラを使って家族、恋人、友人といった人物を撮影しているのではないだろうか。写真家の野村誠一氏も仕事の 4 割がデジタルになったと語っていた。しかし、デジタルの無機質さから、自然な肌を表現できるアナログに帰ることがあるという言葉は興味深かった。また、写真家にとってライティングは大変重要な要素だが、Photoshop により簡単に太陽光源を増やせるのでライティングが楽になったと言う。

二日間に渡る日本発の「Photoshop World 2005 in JAPAN」は盛況のうちに幕を閉じた。このイベントを通して、Photoshop の持つ可能性やテクニックに触れることができ、刺激を受けた参加者は少なくなかったに違いない。来年も開催されるようであれば、Photoshop ユーザーの方には出席をぜひお勧めしたいと思う。

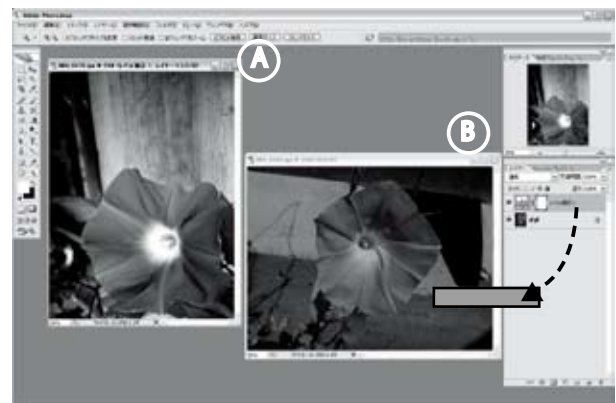
(K.N)



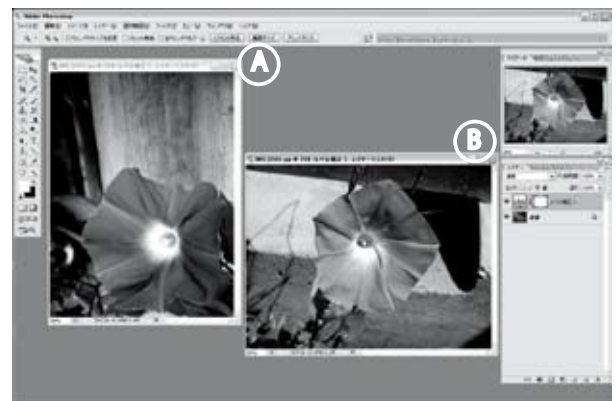
調整前の画像 (ちょっと暗いので明るくしてみよう)



(サンプル 1) A を調整レイヤーで明るさ補正



(サンプル 2) A の調整レイヤーを B にドロップ



(サンプル 3) B にも明るさ補正が反映された。